

安全データシート

エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム

改訂日: 2024-05-09 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム
CB番号	: CB3283897
CAS	: 64-02-8
同義語	: エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 主たる用途は金属イオンのキレート剤である。
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

H23.1.31、政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7月版)を使用

物理化学的危険性

健康に対する有害性

急性毒性(経口) 区分4

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2A

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 区分2(全身毒性)

環境に対する有害性

水生環境急性有害性 区分2

水生環境慢性有害性 区分外

注) 上記で区分の記載がない危険有害性は政府向けガイダンス文書で規定された[分類対象外]、[区分外]または[分類できない]に該当するものであり、後述の該当項目の説明を確認する必要がある。

ラベル要素

絵表示又はシンボル

GHS05	GHS06	GHS02

注意喚起語

警告

危険有害性情報

飲み込むと有害

強い眼刺激

全身臓器の障害のおそれ

水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

取扱い後は手をよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

取扱後は眼をよく洗うこと。

適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。

粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合:気分が悪い時は医師に連絡すること。

口をすすぐこと。

眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の診断、手当てを受けること。

ばく露したとき、または気分が悪い時:医師に連絡すること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学名又は一般名	: エチレンジアミン四酢酸四ナトリウム
別名	: EDTA四ナトリウム、(EDTA tetrasodium)、エチレンジアミン四酢酸テトラナトリウム、エチレンビスニトリロテトラキス(酢酸ナトリウム)塩、(Ethylenebisnitrilotetakis(acetic acid sodium) salt)
分子式(分子量)	: C ₁₀ H ₁₂ N ₂ Na ₄ O ₈ (380.172)
CAS番号	: 64-02-8
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	: (2)-1265
分類に寄与する不純物及び安定化添加	: データなし
純度又は濃度範囲	: 100%

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

水と石鹸で洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

気分が悪い時は医師に連絡すること。

口をすすぐこと。

予想される急性症状及び遅発性症状

吸入:咳、咽頭痛。

皮膚:発赤。

眼:発赤、痛み。

経口摂取:咽喉や胸部の灼熱感、腹痛、下痢。

最も重要な兆候及び症状

データなし

応急措置をする者の保護

データなし

医師に対する特別注意事項

データなし

5. 火災時の措置

消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

データなし。

特有の危険有害性

加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

密閉された場所に立入る前に換気する。

全ての着火源を取り除く。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

回収・中和

漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

封じ込め及び浄化方法・機材

水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。

二次災害の防止策

プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

特別に技術的対策は必要としない。

局所排気・全体換気

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

取扱い後は手をよく洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。

粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

接触回避

10項に示す混触危険物質との接触を回避する。

保管

技術的対策

特別に技術的対策は必要としない。

保管条件

施錠して保管すること。

容器包装材料

データなし。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)

日本産衛学会

未設定

ACGIH

未設定

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。

ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用すること。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	粉末
色	白色
臭い	データなし
pH	11.3 (1% sol.) : Merck (14th, 2006)
300 °C	: Merck (14th, 2006)

データなし

>100 °C (CC) : IUCLID(2000)

>200 °C : IUCLID(2000)

データなし

データなし

1.49E-12 mmHg (25 °C) : Howard (1997)

データなし

データなし

データなし (0.71 g/cm³ : IUCLID(2000))

約 103 g/100 mL : Merck (14th, 2006)

データなし

-13.17 : SRC (Access on Jun. 2010)

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

融点・凝固点

300 °C : Merck (14th, 2006)

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

引火点

>100 °C (CC) : IUCLID(2000)

自然発火温度

>200 °C : IUCLID(2000)

燃焼性(固体、ガス)

データなし

爆発範囲

データなし

蒸気圧

1.49E-12 mmHg (25 °C) : Howard (1997)

蒸気密度

データなし

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

データなし (0.71 g/cm³ : IUCLID(2000))

溶解度

約 103 g/100 mL : Merck (14th, 2006)

データなし

オクタノール・水分配係数

-13.17 : SRC (Access on Jun. 2010)

分解温度

データなし

粘度

データなし

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる

危険有害反応可能性

粉末や顆粒状で空気と混合すると、粉じん爆発の可能性がある。加熱すると分解し、有毒なヒューム(窒素酸化物など)を生じる。強塩基、強力な酸化剤と反応する。

避けるべき条件

加熱

混触危険物質

強塩基、強力な酸化剤

危険有害な分解生成物

有毒なヒューム(窒素酸化物など)

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットLD50値: 2700、3200、1700、1780-1913、1210-2150 mg/kg (EU-RAR (2004))。 (GHS分類:区分4)

経皮

データなし。(GHS分類:分類できない)

吸入

吸入(ガス): GHSの定義における固体である。(GHS分類:分類対象外)

吸入(蒸気): データなし。(GHS分類:分類できない)

吸入(粉じん): ラットを用い、粉じんとして8時間ばく露(ばく露濃度不明)して死亡の発生はなかった(EU-RAR (2004))。 (GHS分類:データ不足で分類できない。)

皮膚腐食性・刺激性

ウサギに80%水溶液を4時間適用した試験(OECD TG 404)で、適用後24、48、72時間における紅斑の平均スコアはそれぞれ1、0、0.3であり、8日後には消失、浮腫は認められなかった(EU-RAR (2004))。なお、ウサギに80%水溶液を20時間適用した別の試験では、24時間後に重度の紅斑、8日後に落屑が観察されたが、浮腫は認められなかった(EU-RAR (2004))。 (GHS分類:区分外)

眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギ1匹に88%水溶液50 mgを適用後1~24時間で強い刺激性を示し、極度の浮腫、軽度の角膜混濁、膿形成を起し、8日後には軽度の角膜混濁が見られた(EU-RAR (2004))。ウサギ3匹に40%水溶液0.1 mLを適用した試験で、適用後72時間の刺激性スコアが全例で角膜混濁 1、虹彩炎 1、結膜発赤 3、結膜浮腫 2~3であった(EU-RAR (2004))。 (GHS分類:区分2A)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性:データなし。(GHS分類:分類できない)

皮膚感作性:再発性の下腿潰瘍を有する78歳女性が当該物質の水溶液に2回の接触で陽性反応を示した(EU-RAR (2004))。 (GHS分類:データ不足で分類できない。)

生殖細胞変異原性

エームス試験で陰性(HSDB (2004))、また、CHO細胞を用いた染色体異常試験およびシリアンハムスターの胚細胞を用いた形質変換試験でいずれも陰性(IUCLID (2000))。 (GHS分類:in vivo試験のデータがなく分類できない。)

発がん性

データなし。(GHS分類:分類できない)

生殖毒性

ラットを用い妊娠7~14日に経口投与した発生毒性試験で、母動物が下痢、行動低下、体重増加抑制など一般毒性を示したが、着床後胚損失による胎仔死亡率、同腹仔数、胎仔重量には対照群と比べ有意な差はなく、胎仔の外表、内臓、骨格検査においても催奇形性を示す証拠は見出されなかった(EU-RAR (2004))。 (GHS分類:データ不足で分類できない。)

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性(急性有害性)

藻類 (Scenedesmus quadricauda) の72時間EC50 = 1.01 mg/L (EU-RAR, 2004、IUCLID, 2000) である。(GHS分類:区分2)

水生環境有害性(長期間有害性)

急性毒性区分2であるが、本物質の慢性区分に関しては、OECD-ガイダンス文書No.23からも真の毒性ではなく、この毒性値を適用するべきではない。(GHS分類:区分外)

オゾン層への有害性

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。(GHS分類:分類できない)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

該当の有無は製品によっても異なる場合がある。法規に則った試験の情報に基づく修正の必要がある。

国連番号

特定できず

国際規制

海上規制情報

特定できず

国際規制

航空規制情報

特定できず

国内規制

陸上規制情報

特定できず

海上規制情報

特定できず

航空規制情報

特定できず

特別安全対策

移送時にイエローカードの保持が必要。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号

-

15. 適用法令

海洋汚染防止法

有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)

化審法

優先評価化学物質

16. その他の情報

略語と頭字語

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

EC50: 有効濃度 50%

IATA: 国際航空運送協会

IMDG: 国際海上危険物

LC50: 致死濃度 50%

LD50: 致死量 50%

RID: 鉄道による危険物の国際輸送に関する規則

STEL: 短期暴露限度

TWA: 時間加重平均

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法(化審法)<https://www.env.go.jp>

【3】化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【4】NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)<https://www.nite.go.jp/>

【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>

[pageID=0&request_locale=en](http://www.echemportal.org/echemportal/index?)

【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【11】HSDB - 有害物質データベース、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本MSDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。